



## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **08214090 A**(43) Date of publication of application: **20.08.96**

(51) Int. Cl.

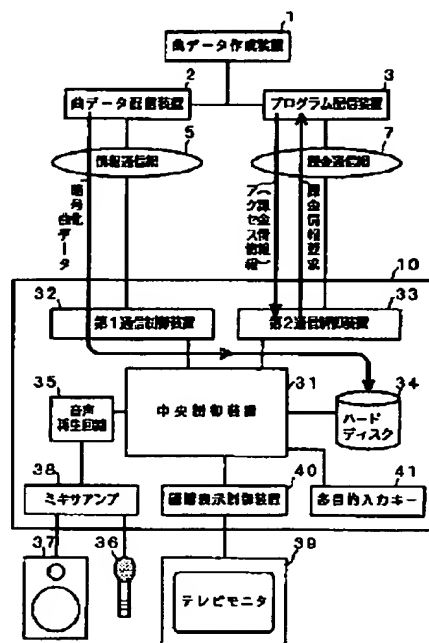
**H04M 11/08**  
**G10K 15/04**  
**H04L 9/06**  
**H04L 9/14**  
**H04M 15/00**  
**H04N 7/16**  
**H04N 7/173**  
**// G09C 1/00**

(21) Application number: **07019126**(22) Date of filing: **07.02.95**(71) Applicant: **EKUSHINGU:KK BROTHER IND LTD**(72) Inventor: **MATSUI HIDEKI****(54) INFORMATION PROVIDING SYSTEM****(57) Abstract:**

**PURPOSE:** To evade the loss of an information provider by inhibiting the use of the information distributed via a communication network even if the information is stolen.

**CONSTITUTION:** The ciphering music data transmitted from a music data distributor 2 is stored in a hard disk 34. The access information including the decoding program corresponding to the access level set to the enciphered music data is received by a central controller 31 from a program distributor 3 through a second communication network 7 and the access information is temporarily stored in the hard disk 34. The central controller 31 reads the decoding program corresponding to the ID number of the enciphered music data from the hard disk 34, decodes the enciphered music data by using this decoding program and makes the data KARAOKE music data.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-214090

(43)公開日 平成8年(1996)8月20日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

H 0 4 M 11/08

G 1 0 K 15/04

H 0 4 L 9/06

9/14

3 0 2 D

H 0 4 L 9/ 02

Z

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 11 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号

特願平7-19126

(22)出願日

平成7年(1995)2月7日

(71)出願人 593118601

株式会社エクシング

愛知県名古屋市昭和区桜山町6丁目104番地

(71)出願人 000005267

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号

(72)発明者 松井 秀樹

愛知県名古屋市昭和区桜山町6丁目104番地 株式会社エクシング内

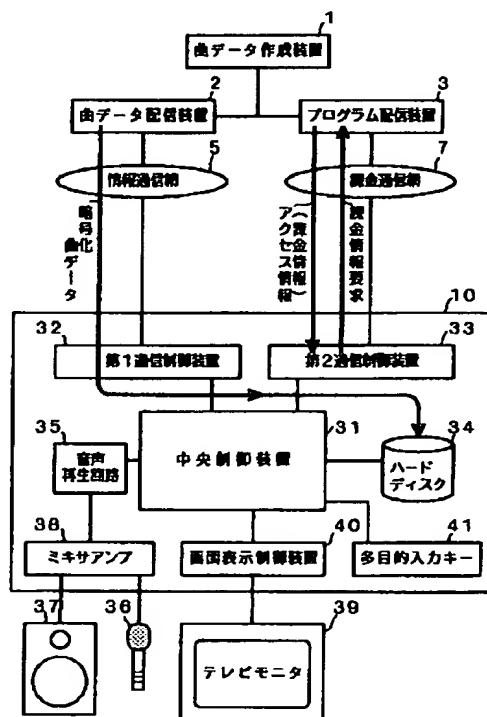
(74)代理人 弁理士 足立 勉

## (54)【発明の名称】 情報提供システム

## (57)【要約】

【目的】 通信網を介して配信される情報を窃取したとしても、その使用を許さないことにより、情報提供者の損失を回避する。

【構成】 曲データ配信装置2から送信されてくる暗号化曲データは、ハードディスク34で記憶される。一方、前記暗号化曲データに設定されているアクセスレベルに対応した復号化プログラムを含んでいるアクセス情報が、プログラム配信装置3から課金通信網7を介し第2通信制御装置33を通して中央制御装置31に受信され、一旦ハードディスク34に記憶される。中央制御装置31は、前記暗号化曲データのID番号に対応する復号化プログラムをハードディスク34から読み込み、この復号化プログラムを使用して前記暗号化曲データを復号しカラオケ曲データとする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 実情報を記憶する情報記憶手段と、前記実情報を用いて所定の処理を実行可能な情報処理実行手段と、第 1 の通信網にアクセス可能な第 1 の通信手段と、第 2 の通信網にアクセス可能な第 2 の通信手段とを有する情報処理装置と、  
前記第 1 の通信網並びに前記第 2 の通信網を介して前記情報処理装置に情報を提供する情報提供装置とを含む情報提供システムであって、  
前記情報提供装置に、  
暗号化プログラムに従って実情報を暗号化して暗号情報とする情報暗号化手段と、  
前記暗号情報を前記第 1 の通信網を介して送信する情報送信手段と、  
前記暗号情報を復号するための復号化プログラムを前記第 2 の通信網を介して送信するプログラム送信手段とを設け、  
前記情報処理装置に、前記第 1 の通信手段により前記第 1 の通信網にアクセスして取得した前記暗号情報を前記第 2 の通信手段により前記第 2 の通信網にアクセスして取得した前記復号化プログラムに従って復号して前記実情報とする復号手段を設けたことを特徴とする情報提供システム。

【請求項 2】 前記第 2 の通信網は課金機能を有する課金通信網であり、  
前記情報提供装置に、前記復号化プログラム送信の対価に相当する課金処理を前記課金通信網に要求する課金要求手段を設けたことを特徴とする請求項 1 記載の情報提供システム。

【請求項 3】 前記情報提供装置に、  
前記実情報のアクセスレベルを記憶するアクセスレベル記憶手段と、  
前記アクセスレベルに対応する暗号化プログラムを記憶する暗号化プログラム記憶手段と、  
前記アクセスレベルに対応する復号化プログラムを記憶する復号化プログラム記憶手段とを設けると共に、  
前記情報暗号化手段は、前記実情報のアクセスレベルに対応する前記暗号化プログラムに従って前記実情報を暗号化して暗号情報とする構成であり、  
前記情報送信手段は、前記暗号情報と併せて該暗号情報に対応する前記アクセスレベルを送信する構成であり、  
前記プログラム送信手段は、前記情報処理装置から送信されてくる前記アクセスレベルに対応する前記復号化プログラムを送信する構成であることを特徴とする請求項 1 または 2 記載の情報提供システム。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、記憶している実情報を用いて所定の処理を実行可能な情報処理装置と、この情報処理装置に情報を提供する情報提供装置とを含む情報

提供システムに関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、情報を記憶する情報記憶手段と、この情報を用いて所定の処理を実行可能な情報処理実行手段と、通信網にアクセス可能な通信手段とを有する情報処理装置があり、一例として通信網を介して接続されるホスト装置から受信した曲データを使用してカラオケ演奏するカラオケ装置や同様に受信したゲームソフトを使用してビデオゲームを実行するビデオゲーム機等が挙げられる。

【0003】 また、これらカラオケ装置やビデオゲーム機に限らず配信された情報を使用する情報処理装置の場合、通常は曲データ等の情報の配信を受ける毎あるいは情報を使用する毎に情報料が課されている。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、通信網を介して配信される曲データ等の情報が、通信網から窃取されることもないわけではなかった。窃取した情報を使用されることは、本来情報提供者が得るべき利益を損なうことになるので、このような情報の窃取に対する対策が求められていた。

【0005】 本発明は、通信網を介して配信される情報を窃取したとしても、その使用を許さないことにより、情報の窃取による利得＝情報提供者の損失を回避することを目的としている。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するための手段として、請求項 1 記載の情報提供システムは、実情報を記憶する情報記憶手段と、前記実情報を用いて所定の処理を実行可能な情報処理実行手段と、第 1 の通信網にアクセス可能な第 1 の通信手段と、第 2 の通信網にアクセス可能な第 2 の通信手段とを有する情報処理装置と、前記第 1 の通信網並びに前記第 2 の通信網を介して前記情報処理装置に情報を提供する情報提供装置とを含む情報提供システムであって、前記情報提供装置に、暗号化プログラムに従って実情報を暗号化して暗号情報とする情報暗号化手段と、前記暗号情報を前記第 1 の通信網を介して送信する情報送信手段と、前記暗号情報を復号するための復号化プログラムを前記第 2 の通信網を介して送信するプログラム送信手段とを設け、前記情報処理装置に、前記第 1 の通信手段により前記第 1 の通信網にアクセスして取得した前記暗号情報を前記第 2 の通信手段により前記第 2 の通信網にアクセスして取得した前記復号化プログラムに従って復号して前記実情報とする復号手段を設けている。

【0007】 請求項 2 記載の情報提供システムは、請求項 1 記載の情報提供システムにおいて、前記第 2 の通信網は課金機能を有する課金通信網であり、前記情報提供装置に、前記復号化プログラム送信の対価に相当する課金処理を前記課金通信網に要求する課金要求手段を設け

たことを特徴とする。

【0008】請求項3記載の情報提供システムは、請求項1または2記載の情報提供システムにおいて、前記情報提供装置に、前記実情報のアクセスレベルを記憶するアクセスレベル記憶手段と、前記アクセスレベルに対応する暗号化プログラムを記憶する暗号化プログラム記憶手段と、前記アクセスレベルに対応する復号化プログラムを記憶する復号化プログラム記憶手段とを設けると共に、前記情報暗号化手段は、前記実情報のアクセスレベルに対応する前記暗号化プログラムに従って前記実情報を暗号化して暗号情報とする構成であり、前記情報送信手段は、前記暗号情報と併せて該暗号情報に対応する前記アクセスレベルを送信する構成であり、前記プログラム送信手段は、前記情報処理装置から送信されてくる前記アクセスレベルに対応する前記復号化プログラムを送信する構成であることを特徴とする。

【0009】

【作用】上記の構成になる請求項1記載の情報提供システムにおいては、情報処理装置に設けられている情報記憶手段は実情報を記憶し、情報処理実行手段は実情報を用いて所定の処理を実行可能であり、第1の通信手段は第1の通信網にアクセス可能、第2の通信手段は第2の通信網にアクセス可能である。

【0010】また、情報提供装置は、第1の通信網並びに第2の通信網を介して情報処理装置に情報を提供する。この情報提供装置に設けられている情報暗号化手段は暗号化プログラムに従って実情報を暗号化して暗号情報とし、情報送信手段は暗号情報を第1の通信網を介して送信し、プログラム送信手段は暗号情報を復号するための復号化プログラムを第2の通信網を介して送信する。

【0011】一方、情報処理装置に設けられている復号手段は、第1の通信手段により第1の通信網にアクセスして取得した暗号情報を第2の通信手段により第2の通信網にアクセスして取得した復号化プログラムに従って復号して実情報とする。この実情報は、上述のように情報処理実行手段で使用される。

【0012】実情報ではなくこれを暗号化した暗号情報を送受し、別途送受される復号化プログラムで復号する。仮に暗号情報を窃取したとしてもそのままでは使用できない。しかも、第1の通信網により暗号情報を受受し、第2の通信網で復号化プログラムを受受するので、暗号情報と復号化プログラムの双方を窃取される可能性はきわめて小さくなる。よって、通信網を介して配信される暗号情報を窃取したとしてもその使用はきわめて困難であり、情報の窃取による利得＝情報提供者の損失を回避できる。

【0013】請求項2記載の情報提供システムにおいては、第2の通信網は課金機能を有する課金通信網であり、情報提供装置に設けられている課金要求手段は復号

化プログラム送信の対価に相当する課金処理を前記課金通信網に要求する。復号化プログラムを送信する毎にその対価を、例えば情報処理装置が接続されている公衆電話回線の使用者（回線使用契約者）に対して課金でき、それを電話料金と併せて代理徴収させることができる。実情報の使用に必要な復号化プログラムの送信に対して課金できるので、情報使用料（正確には復号化プログラムの提供料）を確実に、且つ徴収のために人手を要さずに回収できる。

10 【0014】請求項3記載の情報提供システムにおいては、情報提供装置に設けられているアクセスレベル記憶手段は実情報のアクセスレベルを記憶し、暗号化プログラム記憶手段はアクセスレベルに対応する暗号化プログラムを記憶し、復号化プログラム記憶手段はアクセスレベルに対応する復号化プログラムを記憶する。さらに、情報暗号化手段は、実情報のアクセスレベルに対応する暗号化プログラムに従って実情報を暗号化して暗号情報とし、情報送信手段は、暗号情報と併せて該暗号情報に対応するアクセスレベルを送信し、プログラム送信手段は、情報処理装置から送信されてくるアクセスレベルに対応する復号化プログラムを送信する。

20 【0015】実情報のアクセスレベル毎に暗号化並びに復号化プログラムが存在するので、仮にあるアクセスレベルの復号化プログラムが窃取されたとしても、他のアクセスレベルの実情報を暗号化した暗号情報が復号されることはない。上述のように暗号情報と復号化プログラムの双方を窃取することはきわめて困難である上に一つの復号化プログラムを窃取しただけでは他のアクセスレベルの暗号情報を復号することができないので、実情報に関するセキュリティは一層高まる。

30 【0016】また、各アクセスレベルに対応する復号化プログラム毎に対価の額を異ならせることもできるので、情報使用料（正確には復号化プログラムの提供料）を実情報の種類等に応じて様々に設定することができる。

【0017】

40 【実施例】以下、本発明を具体化した一実施例を図面を参照して説明する。図1は、実施例のカラオケ曲情報提供システムの概略構成図、図2はそのシステムにおいて情報発信側となり本発明の情報提供装置に該当する機構を構成する曲データ作成装置、曲データ配信装置およびプログラム配信装置の構成を示すブロック図、図3は同システムにおいて情報受信側となり本発明の情報処理装置に該当するカラオケ装置の構成を示すブロック図である。

50 【0018】図1に示すように、本カラオケ曲情報提供システムは、曲データ作成装置1、曲データ配信装置2およびプログラム配信装置3が互いに接続され、曲データ配信装置2には複数のカラオケ装置10が情報通信網5を介して接続され、さらに各カラオケ装置10は課金

通信網7を介してプログラム配信装置3に接続されて構成されている。

【0019】図2に示すように、曲データ作成装置1は、データ作成部8と監視用端末11とで構成されている。データ作成部8には、制御手段としてのコンピュータ12、記憶装置14、通信制御装置15が内蔵され、記憶装置14および通信制御装置15はコンピュータ12に接続されている。

【0020】記憶装置14は、コンピュータ12が作動するための各種制御プログラム、カラオケ曲データ、カラオケ曲データのアクセスレベル、カラオケ曲データを暗号化処理するための暗号化プログラム、各々の暗号化プログラムに対応する復号化プログラム等を記憶するためのものである。

【0021】1曲分のカラオケ曲データは、曲同士を識別するための識別情報である曲番号情報、アクセスレベルに対応するID番号および実体情報とから構成されている。この内の実体情報は、伴奏音楽の情報であるMIDI (Musical Instrument Digital Interface) 規格の演奏情報および歌詞情報を含み、さらに曲毎に対応した映像情報を符号化した背景映像情報を含む場合もある。また、アクセスレベル (ID番号) は、曲毎に設定することや、例えば曲の発表年度、曲のジャンル、歌手やグループ毎、曲あるいは歌手やグループの人気度、新曲とそれ以外等で曲を適宜の群に分類して各群毎に設定するなど、任意である。

【0022】暗号化プログラムは、上述のアクセスレベルに対応して複数種類が記憶装置14に記憶されており、コンピュータ12は、カラオケ曲データのID番号に基づいて記憶装置14から読み込んだ暗号化プログラムに従ってカラオケ曲データの実体情報部分を暗号化して暗号情報にすることができる。

【0023】またコンピュータ12は、この暗号情報と曲番号情報およびID番号とで構成される暗号化曲データ並びに暗号化に使用した暗号化プログラムに対応する復号化プログラムと曲番号情報およびID番号とで構成されるアクセス情報を構築できる。さらに、コンピュータ12は、通信制御装置15を介して、暗号化曲データを曲データ配信装置2に、アクセス情報をプログラム配信装置3に送信することができる。このことから明らかなように、コンピュータ12は本発明の情報暗号化手段として機能し、記憶装置14は、請求項3記載のアクセスレベル記憶手段、暗号化プログラム記憶手段および復号化プログラム記憶手段に該当する。

【0024】監視用端末11は、制御手段としてのマイクロコンピュータ (マイコン) 16、キーボード17、CRT18、プリンタ19等を備えており、キーボード17を介して監視用端末11を操作してコンピュータ12に各種の指令やデータ等を入力でき、例えば記憶装置14に記憶されているデータ等を取り出してプリンタ1

9によって印刷させたり、CRT18に表示させたりすることができる。

【0025】曲データ配信装置2は、データ作成部8と同様に、コンピュータ20と、このコンピュータ20に接続された記憶装置21および通信制御装置22を内蔵し、制御手段としてのコンピュータ20には上述の監視用端末11と同様の監視用端末23が接続されている。

【0026】通信制御装置22は、例えばLAN (ローカルエリアネットワーク) を介してデータ作成部8の通信制御装置15と接続されており、相互にデータの送受が可能である。記憶装置21は、コンピュータ20が作動するための各種制御プログラムおよび各種のデータ等を記憶するためのものである。

【0027】コンピュータ20は、上述のようにデータ作成部8から送信され、通信制御装置22を介して受信した暗号化曲データを記憶装置21に記憶させることが可能であり、記憶装置21から読み出した暗号化曲データを、通信制御装置22および情報通信網5を介してカラオケ装置10に送信することができる。このことから明らかなように、曲データ配信装置2、特にそこに内蔵されるコンピュータ20と通信制御装置22とが本発明の情報送信手段として機能する。

【0028】プログラム配信装置3も、データ作成部8および曲データ配信装置2とほぼ同様に構成されており、制御手段としてのコンピュータ24、記憶装置25および通信制御装置26を内蔵し、コンピュータ24には監視用端末11と同様の監視用端末27が接続されている。また、通信制御装置26は、データ作成部8の通信制御装置15並びに曲データ配信装置2の通信制御装置22と接続されており、相互にデータの送受が可能である。

【0029】記憶装置25は、コンピュータ24が作動するための各種制御プログラムおよび各種のデータ等を記憶するためのものである。コンピュータ24は、上述のようにデータ作成部8から送信され、通信制御装置26を介して受信したアクセス情報を記憶装置25に記憶させることが可能であり、記憶装置25から読み出したアクセス情報を、通信制御装置26および課金通信網7を介してカラオケ装置10に送信することができる。このことから明らかなように、プログラム配信装置3、特にそこに内蔵されるコンピュータ24と通信制御装置26とが本発明のプログラム送信手段として機能する。

【0030】なお、詳細は後述するが課金通信網7を介してのアクセス情報の送信に際して、そのアクセスレベル (ID番号) に対応して予め設定されている対価に相当する課金処理が、課金通信網7の課金機能によってなされる。つまり、コンピュータ24と通信制御装置26とが請求項2に記載の課金要求手段として機能することになる。

【0031】ここで課金通信網7について説明する。課

金通信網7は、例えばビデオテックス通信網やダイヤルキューツ通信網のように、情報料に対して課金する機能を持つものである。現在の日本国内では、ビデオテックス網とダイヤルキューツ網がその代表的なものとして知られている。ダイヤルキューツ網は基本的に時間単位の従量計算であり、ビデオテックス網は、情報の内容毎に任意の料金を設定可能であり、いわゆるキャプテンシステム等に用いられている。

【0032】その課金機能の一例として、ビデオテックス通信網について説明すると、ビデオテックス通信網は、具体的には例えば各カラオケ装置10に接続された公衆電話回線とビデオテックス通信処理装置（VCP）とで構成されている。このVCPが、ビデオテックス通信網にアクセスしようとしている公衆電話回線（現状としては特番166と5桁の課金センタ番号をダイヤルした公衆電話回線）の課金センタ（本実施例においてはプログラム配信装置3が課金センタに相当している）への接続・交換、利用者端末である情報処理装置の管理及び課金センタへの加入者管理、通信料及び電話会社が代理徴収する情報使用料の課金、情報処理装置と課金センタとの間の会話制御、プロトコル変換やコード/パターン変換などの変換処理等の通信処理機能を提供する。

【0033】次に、カラオケ装置10の構成について説明する。図3に示すように、カラオケ装置10は、図示しないCPU、RAM、ROM等を有してカラオケ装置10の中核となり本発明の情報処理実行手段および復号手段として機能する中央制御装置31、本発明の第1の通信手段に該当し情報通信網5を介して曲データ配信装置2との通信を実行するための第1通信制御装置32、本発明の第2の通信手段に該当し課金通信網7を介してプログラム配信装置3との通信を実行するための第2通信制御装置33、本発明の情報記憶手段に該当し曲データ配信装置2から送信されてくる暗号化曲データ、この暗号化曲データを復号したカラオケ曲データを記憶すると共に中央制御装置31の動作プログラムや曲データ配信装置2並びにプログラム配信装置3との通信に際して個々のカラオケ装置10を識別するためのパスワード等を記憶する記憶手段としてのハードディスク34、中央制御装置31と共動して本発明の情報処理実行手段として機能しディジタルデータをアナログの演奏信号に変換する音声再生回路35、音声再生回路35から送られてくる演奏信号を電氣的に増幅しマイクロフォン36を介して入力される音声と適度な割合でミキシングし、スピーカ37に出力するミキサアンプ38、中央制御装置31と共動して本発明の情報処理実行手段として機能し歌詞情報を背景映像情報と合成して表示手段としてのテレビモニタ39に表示させる画面表示制御装置40、各種指示入力を行なうための入力手段としての多目的入力キー41等を備えている。

【0034】ハードディスク34は、数千曲分のデータ

を記憶可能であり、曲データ配信装置2から送信されてくる暗号化曲データを逐次記憶できるが、その暗号化曲データは、上述のようにデータ作成部8において暗号化処理されているので、そのままでは使用できない。これを復号処理して使用できる状態にするためには、課金通信網7に第2通信制御装置33を通して接続し、プログラム配信装置3から、復号化プログラムを含んでいるアクセス情報を得る必要がある。なお、上述したように、アクセス情報は復号しようとする暗号化曲データに設定されているアクセスレベルに対応したものでなければ役に立たない。

【0035】次に、暗号化曲データの受信、その復号に使用するアクセス情報の取得について説明する。まず暗号化曲データの受信について説明する。なお、暗号化曲データを受信するには、曲データ配信装置2に対して特定の曲の暗号化曲データを指定して送信してもらうことや、既にハードディスク34に記憶されている以外の曲（いわゆる新曲）があれば、その暗号化曲データを送信してもらう等さまざまな方式が採用できるが、ここでは新曲を送信してもらう場合を例にして、図4に示される曲データ受信ルーチンを参照して説明する。この曲データ受信ルーチンは、24時間毎等の適宜のタイミングあるいは多目的入力キー41を介しての指令に従って、カラオケ装置10がカラオケ演奏に使用されていない時に繰り返し実行される。

【0036】図4に示すように、カラオケ装置10の中央制御装置31は、曲データ受信ルーチンを開始すると、まず第1通信制御装置32により情報通信網5を介して曲データ配信装置2との通信を開始して、新曲の有無を問合わせる（S101）。この問合わせを受けた曲データ配信装置2のコンピュータ20は、カラオケ装置10からの最新の曲データ情報若しくは各カラオケ装置10毎に作成されている曲送付済みテーブル等を参照して新曲を検索し、未送付の新曲が有るか無いかを示す回答をカラオケ装置10に送信する。

【0037】カラオケ装置10の中央制御装置31は、この回答結果に基づいて新曲が有るか無いか判断し（S102）、新曲がなければ（S102でNO）、一旦この曲データ受信ルーチンを終了する。一方、新曲が有る場合には（S102でYES）、曲データ配信装置2にその新曲の暗号化曲データの送信を要求する（S103）。

【0038】次に、中央制御装置31は、S103で送信した要求に応じて曲データ配信装置2から送信されてくる暗号化曲データを受信し、これをハードディスク34に記憶させ（S104）、この曲データ受信ルーチンを終了する。次に、暗号化曲データの復号に関わる処理について、カラオケ装置10がカラオケ演奏に使用されていない時に中央制御装置31が繰り返し実行する復号処理ルーチンを示す図5およびカラオケ装置10とプロ

グラム配信装置3との間で実行される通信シーケンスを示す図6を参照して説明する。

【0039】図5に示すように、カラオケ装置10の中央制御装置31は、復号処理ルーチンを開始するとまず復号処理が必要な暗号化曲データがハードディスク34に記憶されているかを判断する(S201)。ここで、ハードディスク34に暗号化曲データが無ければ(S201でNO)、中央制御装置31はこのルーチンを終了する。

【0040】また、ハードディスク34に暗号化曲データが記憶されていれば(S201でYES)、中央制御装置31はプログラム配信装置3に対してアクセス情報の送信を要求する(S203)。続いて、中央制御装置31は、プログラム配信装置3からアクセス情報を受信しハードディスク34に記憶させる(S204)。

【0041】このS203～S204の処理について、図6を参照して詳しく説明する。まず、中央制御装置31は、第2通信制御装置33により課金通信網7を介してプログラム配信装置3に対して発呼する。続いて、中央制御装置31は、プログラム配信装置3への着呼を待つて、カラオケ装置10を識別するパスワードを発信する。

【0042】プログラム配信装置3では、カラオケ装置10のパスワードを受け取ると、コンピュータ24が端末照合を行い、プログラム配信装置3に登録されているカラオケ装置10であれば、照合正常としてパスワード確認信号を返送する。パスワード確認信号を受信すると、中央制御装置31は、復号化プログラムを要する暗号化曲データのID番号を送信してアクセス情報の送信を要求する。

【0043】プログラム配信装置3では、アクセス情報の送信要求を受信すると、コンピュータ24が、カラオケ装置10から送信されてきたID番号と同じID番号が付されているアクセス情報を記憶装置25から読み出して通信制御装置26を通してカラオケ装置10に送信する。この際、課金通信網7を介してアクセス情報が送信されることにより、課金通信網7の課金機能によって、このアクセス情報の送信に対して予め設定されている料金が、カラオケ装置10が接続されている電話回線の加入契約者に対して課金される。この料金は、電話回線使用料と合わせて代理徴収される。

【0044】つまり、中央制御装置31はプログラム配信装置3に対してアクセス情報の送信を要求すると共に課金を指令していることになり、プログラム配信装置3はアクセス情報を送信すると同時に課金通信網7に課金処理を要求していることになる。

【0045】中央制御装置31は、アクセス情報を受信すると、プログラム配信装置3に通信切断要求を発信する。プログラム配信装置3は、この要求を受信するとカラオケ装置10との通信を終了する。ここで図5に示さ

れる復号処理ルーチンの説明に戻る。

【0046】中央制御装置31は、S203～S204により取得され、且つハードディスク34に記憶されている復号化プログラムを使用して暗号化曲データを復号してカラオケ曲データとする(S205)。続いて、中央制御装置31は、上述のように復号したカラオケ曲データをハードディスク34に記憶させる(S206)。こうして新曲のカラオケ演奏が可能とされる。続いて、中央制御装置31は、ハードディスク34に指示して、ハードディスク34に記憶されている復号化プログラムを消去させる(S207)。

【0047】次に、カラオケ装置10によるカラオケ演奏について簡単に説明する。上述のように新曲のカラオケ曲データが使用できるようになると(新曲以外はすでに使用可能である)、利用者は多目的入力キー41あるいは図示しないリモコン等を操作することで歌いたい曲を選択する。すると中央制御装置31は、所定のカラオケ演奏プログラムに従って、カラオケ演奏処理を実行する。

【0048】中央制御装置31は、選択された曲に対応する演奏情報、歌詞情報をハードディスク34から読み出し、演奏情報は音声再生回路35に、歌詞情報は画面表示制御装置40にそれぞれ転送する。音声再生回路35に出力された演奏情報は、アナログの演奏信号に変換された後、ミキサンプ38へ送られて電氣的に増幅されるとともに、マイクrofフォン36を介して入力する利用者の歌声と適度な割合でミキシングされる。ミキシングされた音声信号は、スピーカ37により演奏音として外部へ出力される。

【0049】一方、演奏情報と同期して出力される歌詞情報は、画面表示制御装置40において、図示しない映像ソース(例えばビデオディスクプレーヤ等)から供給される背景映像情報と合成(スーパーインポーズ)されてテレビモニタ39に表示される。これにより、テレビモニタ39には、背景映像に歌詞テロップが合成された状態で表示される。

【0050】このように、本実施例のカラオケ曲情報提供システムにおいては、曲データ配信装置2は、そのまま使用可能なカラオケ曲データではなく、これをデータ作成部8にて暗号化した暗号化曲データを送信する。プログラム配信装置3は、暗号化曲データの復号に必要な復号化プログラムを送信する。そしてカラオケ装置10は曲データ配信装置2から受信した暗号化曲データを、プログラム配信装置から受信したアクセス情報に含まれる復号化プログラムを使用して復号する。

【0051】仮に暗号化曲データが窃取されたとしてもそのままでは使用できない。また、暗号化曲データと復号化プログラムとが、互いに異なる通信網にて別々に送受されるので、暗号化曲データと復号化プログラムの双方を窃取される可能性はきわめて小さくなる。よって、

情報通信網5を介して配信される暗号化曲データを窃取したとしてもその使用はきわめて困難であり、情報の窃取による利得＝情報提供者の損失を回避できる。

【0052】また、例えばスクランブル解除キー等のキーデータでは、データ量が少ないこともあって解析される可能性があるが、復号化プログラムの場合データ量も多く、解析自体も困難であるので、スクランブル解除キー等のキーデータを使用する場合に比べて安全性はきわめて高い。

【0053】しかも、復号化プログラムの送信が課金通信網7によって行われるので、復号化プログラムを送信する毎にその対価を、カラオケ装置10が接続されている公衆電話回線の使用者（回線使用契約者）に対して課金でき、それを電話料金と併せて代理徴収させることができる。暗号化曲データの復号に必要な復号化プログラムの送信に対して課金できるので、情報使用料（正確には復号化プログラムの提供料）を確実に、且つ徴収のために人手を要せずに回収できる。

【0054】さらに、カラオケ曲データのアクセスレベル毎に暗号化並びに復号化プログラムが存在するので、仮にあるアクセスレベルの復号化プログラムが窃取されたとしても、他のアクセスレベルのカラオケ曲データを暗号化した暗号化曲データが復号されることはない。上述のように暗号化曲データ復号化プログラムの双方を窃取することはきわめて困難である上に一つの復号化プログラムを窃取しただけでは他のアクセスレベルの暗号化曲データを復号することができないので、実情報に関するセキュリティは一層高まる。また、各アクセスレベルに対応する復号化プログラム毎に対価の額を異ならせることもできるので、情報使用料（正確には復号化プログラムの提供料）をカラオケ曲のジャンルや歌手等に応じて様々に設定することができる。

【0055】以上、実施例に従って、本発明について説明したが、本発明はこのような実施例に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲でさまざまに実施できることは言うまでもない。例えば、実施例では曲データ作成装置1、曲データ配信装置2およびプログラム配信装置3をそれぞれ別個に設けているが、これらの2者あるいは3者をまとめて1基とする構成も可能である。また、これら曲データ作成装置1、曲データ配信装置2およびプログラム配信装置3は、例えば同一の建物内等に集合させて設置する必要はなく、分散して設置することもできる。

【0056】さらに、実施例ではカラオケ装置にカラオケ曲データを蓄積する構成としているが、アクセス情報もハードディスク等に蓄積する構成としたり、あるいは1回ないしは所定の回数使用したら抹消する構成や、カラオケ曲情報およびアクセス情報の両者を1回あるいは所定の回数使用したら抹消する構成としてもよい。

【0057】なお、言うまでもないことだが、情報処理

装置は、実施例のカラオケ装置に限定されるわけではない。

【0058】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1記載の情報提供システムによれば、実情報ではなくこれを暗号化した暗号情報を受受し、別途送受される復号化プログラムで復号する。仮に暗号情報を窃取したとしてもそのままでは使用できない。しかも、第1の通信網により暗号情報を受受し、第2の通信網で復号化プログラムを送受するので、暗号情報と復号化プログラムの双方を窃取される可能性はきわめて小さくなる。よって、通信網を介して配信される暗号情報を窃取したとしてもその使用はきわめて困難であり、情報の窃取による利得＝情報提供者の損失を回避できる。

【0059】また、暗号情報の復号に当たって復号化プログラムを要するので、スクランブル処理とスクランブル解除キーによる等のキーデータを使用するセキュリティシステムに比べて情報の安全性はきわめて高い。請求項2記載の情報提供システムによれば、復号化プログラムを送信する毎にその対価を、例えば情報処理装置が接続されている公衆電話回線の使用者（回線使用契約者）に対して課金でき、それを電話料金と併せて代理徴収させることができる。実情報の使用に必要な復号化プログラムの送信に対して課金できるので、情報使用料（正確には復号化プログラムの提供料）を確実に、且つ徴収のために人手を要せずに回収できる。

【0060】請求項3記載の情報提供システムによれば、実情報のアクセスレベル毎に暗号化並びに復号化プログラムが存在するので、仮にあるアクセスレベルの復号化プログラムが窃取されたとしても、他のアクセスレベルの実情報を暗号化した暗号情報が復号されることはない。上述のように暗号情報と復号化プログラムの双方を窃取することはきわめて困難である上に一つの復号化プログラムを窃取しただけでは他のアクセスレベルの暗号情報を復号することができないので、実情報に関するセキュリティは一層高まる。

【0061】また、各アクセスレベルに対応する復号化プログラム毎に対価の額を異ならせることもできるので、情報使用料（正確には復号化プログラムの提供料）を実情報の種類等に応じて様々に設定することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 実施例のカラオケ曲情報提供システムの概略構成図である。

【図2】 実施例のカラオケ曲情報提供システムにおいて情報配信側となる曲データ作成装置、曲データ配信装置およびプログラム配信装置の構成を示すブロック図である。

【図3】 実施例のカラオケ曲情報提供システムの構成要素であるカラオケ装置の構成を示すブロック図であ



る。

【図4】 実施例のカラオケ装置で実行される曲データ受信ルーチンのフローチャートである。

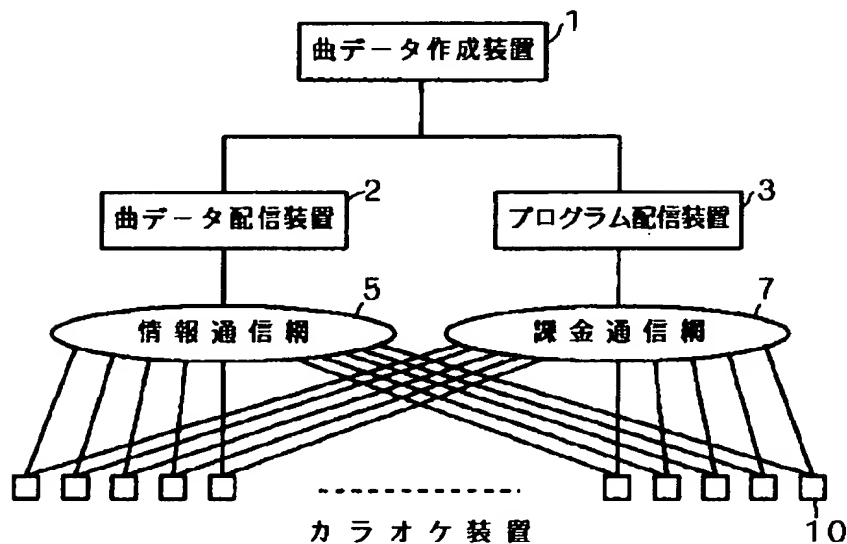
【図5】 実施例のカラオケ装置で実行される復号処理ルーチンのフローチャートである。

【図6】 実施例のカラオケ曲情報提供システムにおいてプログラム配信装置とカラオケ装置との間で行われる通信のシーケンス図である。

【符号の説明】

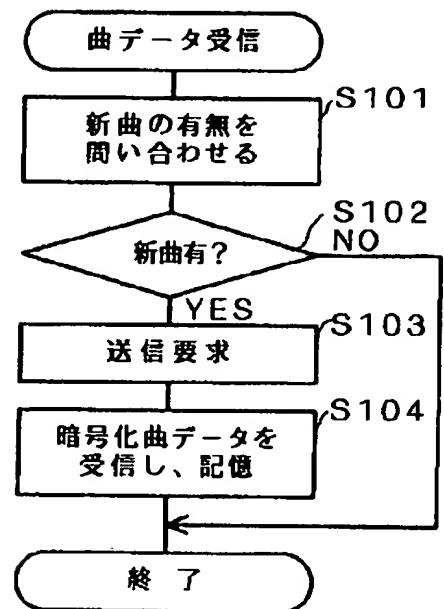
- 1・・・曲データ作成装置（情報提供装置）、  
 2・・・曲データ配信装置（情報送信手段、情報提供装置）、  
 3・・・プログラム配信装置（プログラム送信手段、情報提供装置）、  
 5・・・情報通信網（第1の通信網）、  
 7・・・課金通信網（第2の通信網）、  
 8・・・データ作成部（情報提供装置）、

【図1】

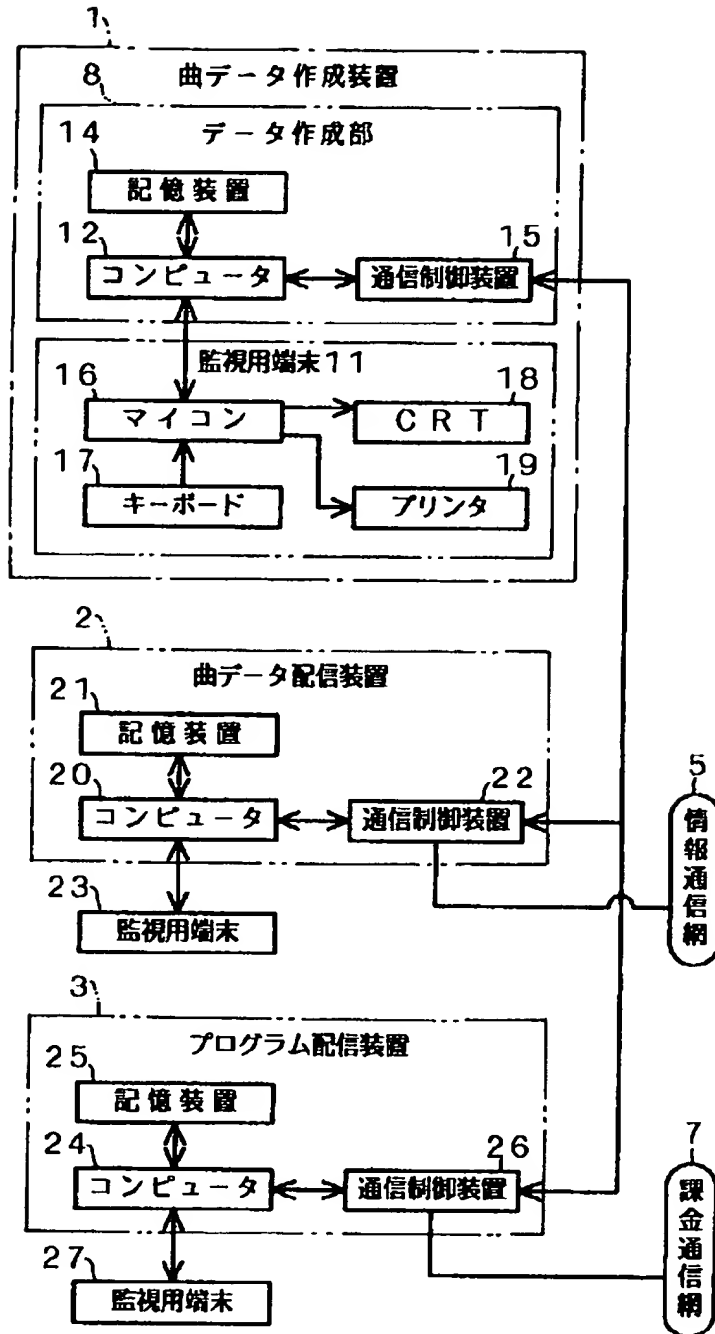


- \* 10・・・カラオケ装置（情報処理装置）、  
 12・・・コンピュータ（情報暗号化手段）、  
 14・・・記憶装置（アクセスレベル記憶手段、暗号化プログラム記憶手段、復号化プログラム記憶手段）、  
 20・・・コンピュータ（情報送信手段）、  
 22・・・通信制御装置（情報送信手段）、  
 24・・・コンピュータ（プログラム送信手段、課金要求手段）、  
 26・・・通信制御装置（プログラム送信手段、課金要求手段）、  
 31・・・中央制御装置（情報処理実行手段、復号手段）、  
 32・・・第1通信制御装置（第1の通信手段）、  
 33・・・第2通信制御装置（第2の通信手段）、  
 34・・・ハードディスク（情報記憶手段）、  
 35・・・音声再生回路（情報処理実行手段）、  
 \* 40・・・画面表示制御装置（情報処理実行手段）。

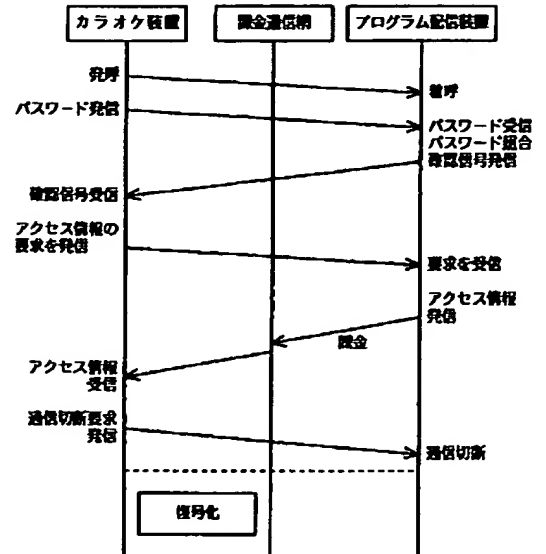
【図4】



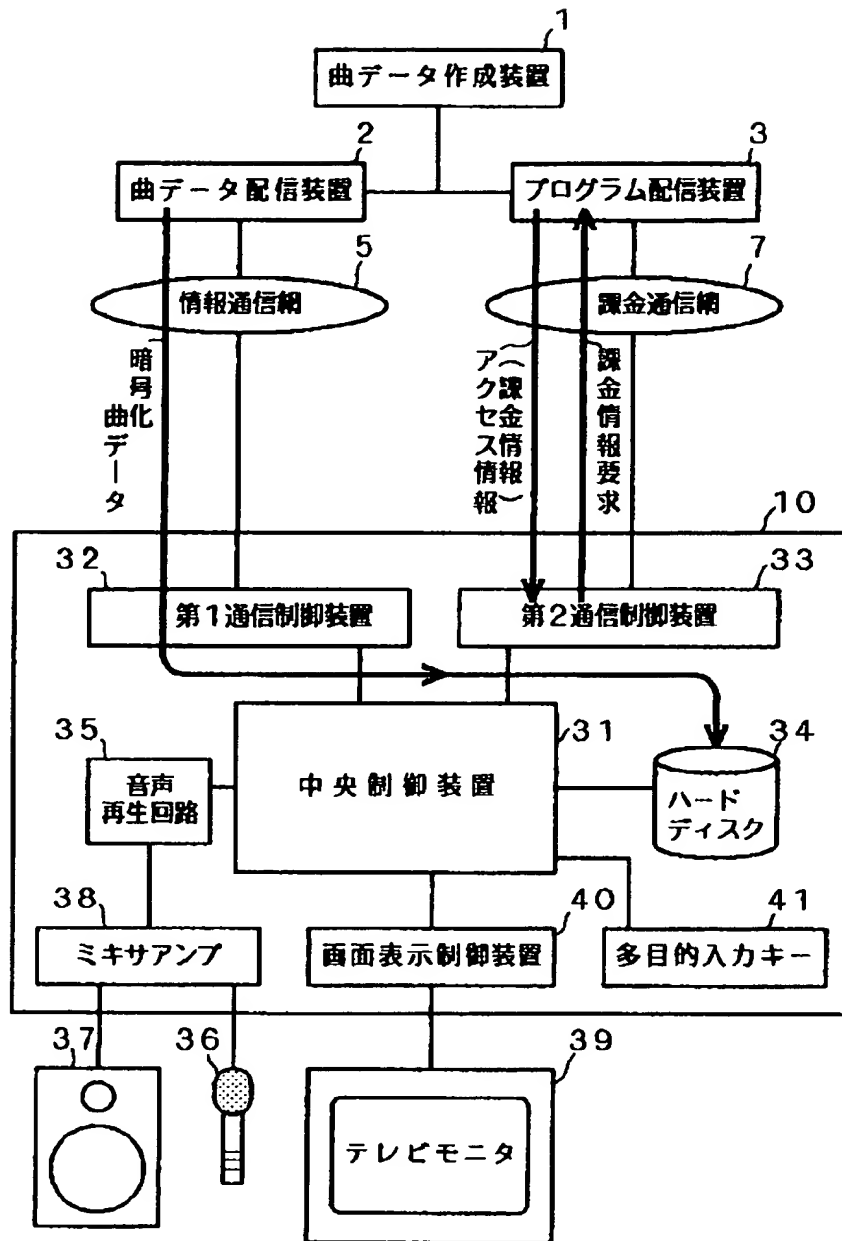
【図2】



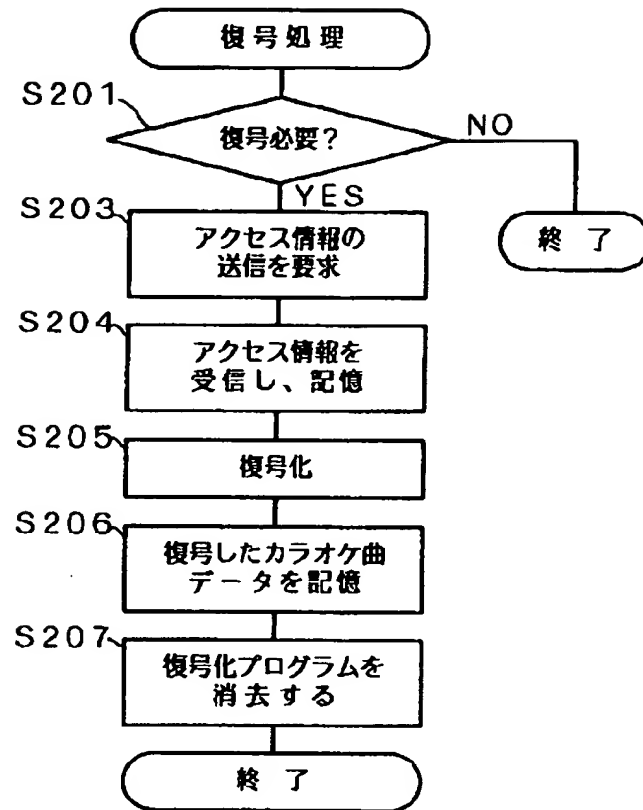
【図6】



【図3】



【図 5】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. °

H 0 4 M 15/00

H 0 4 N 7/16

7/173

// G 0 9 C 1/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Z

C

7259-5 J

## A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>8</sup> H04N7/16, H04L9/00

## B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>8</sup> H04N7/10, 7/16-7/171  
H04L9/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1922-1996年  
 日本国公開実用新案公報 1971-1998年  
 日本国登録実用新案公報 1994-1998年  
 日本国実用新案登録公報 1996-1998年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

JICSTファイル (JOIS) シリアル, IEEE1394, 認証, 暗号

## C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X A	J P, 08-214090, A (株式会社エクシング) 20. 8月. 1996 (20. 08. 96) (ファミリーなし)	1-4, 17-19, 23, 28-30, 43 5-16, 20-22, 24-27, 31-42
X A	J P, 59-210782, A (松下電器産業株式会社) 29. 11月. 1984 (29. 11. 84) (ファミリーなし)	43 1-42
A	「デジタル録画機器向け不正コピー防止技術, 今秋採択へ」 NIKKEI ELECTRONICS 1997年, No. 696, p. 20	1-43

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

## \* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの  
 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの  
 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)  
 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献  
 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&amp;」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

28. 04. 99

国際調査報告の発送日

18.05.99

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

藤内 光武

5 P

9648

電話番号 03-3581-1101 内線 6973

## C (続き) . 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A レ	J P, 9-107350, A (松下電器産業株式会社) 22. 4月. 1997 (22. 04. 97) &, E P 7 6 8 7 7 5	1-43
A	J P, 10-224752, A (ソニー株式会社) 21. 8月. 1998 (21. 08. 98) (ファミリーなし)	1-43
A レ	J P, 6-276188, A (株式会社東芝) 30. 9月. 1994 (30. 09. 94) (ファミリーなし)	1-43
P X	遠藤直樹, 「IEEE 1394 高速シリアルバスにおけるコンテン ツ保護システム」 コンピュータセキュリティシンポジウム' 98 1998年, Vol. 98, No. 12, p. 119-124	1-43
P A	J P, 10-302393, A (株式会社東芝) 13. 11月. 1998 (13. 11. 98) (ファミリーなし)	1-43
P A レ	J P, 10-304333, A (松下電器産業株式会社) 13. 11月. 1998 (13. 11. 98) & E P, 8 6 2 2 9 3	1-43

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP99/00533

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER  
Int.C1<sup>6</sup> H04N7/16, H04L9/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

## B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)  
Int.C1<sup>6</sup> H04N7/10, 7/16-7/171, H04L9/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched  
Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-1998  
Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-1998 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-1998

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)  
JICST File (JOIS), Serial, IEEE1394, Ninshou, Angou

## C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X A	JP, 08-214090, A (XING Inc.), 20 August, 1996 (20. 08. 96) (Family: none)	1-4, 17-19, 23, 28-30, 43 5-16, 20-22, 24-27, 31-42
X A	JP, 59-210782, A (Matsushita Electric Industrial Co., Ltd.), 29 November, 1984 (29. 11. 84) (Family: none)	43 1-42
A	"Digital rokuga kiki muke fusei copy boushi gijutsu, konshuu saitakue" NIKKEI ELECTRONICS 1997, No. 696, p.20	1-43
A	JP, 9-107350, A (Matsushita Electric Industrial Co., Ltd.), 22 April, 1997 (22. 04. 97) & EP, 768775	1-43
A	JP, 10-224752, A (Sony Corp.), 21 August, 1998 (21. 08. 98) (Family: none)	1-43

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* "A" Special categories of cited documents: document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"E" earlier document but published on or after the international filing date	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	"Z" document member of the same patent family
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search  
28 April, 1999 (28. 04. 99)

Date of mailing of the international search report  
18 May, 1999 (18. 05. 99)

Name and mailing address of the ISA/  
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP99/00533

## C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP, 6-276188, A (Toshiba Corp.), 30 September, 1994 (30. 09. 94) (Family: none)	1-43
PX	Naoki Endou, "IEEE1394 kousoku serial bus ni okeru contents hogo system", Computer Security Symposium '98, 1998, Vol. 98, No. 12, p.119-124	1-43
PA	JP, 10-302393, A (Toshiba Corp.), 13 November, 1998 (13. 11. 98) (Family: none)	1-43
PA	JP, 10-304333, A (Matsushita Electric Industrial Co., Ltd.), 13 November, 1998 (13. 11. 98) & EP, 862293	1-43